

◆ 「日常生活」を科学してみよう [社 会 学]

開講単位： 4単位 担当者： 服部 慶亘

◆学習目標

「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、本当にそうだろうか？ そんな疑問と対峙しつつ、学問が日常生活と密接に関わっていることを理解し、社会学的な視点を身につけることが本講義の目的である。

◆授業方法

教科書・参考書・プリント・板書を用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・講義する。必要に応じて、視聴覚資料（CD、DVD、漫画類）を多用する。

◆授業計画〔各90分〕

1回目 講義目的・目標などの確認	14回目 「日本人」を科学する①
2回目 目の前の現実を科学する①	15回目 「日本人」を科学する②
3回目 目の前の現実を科学する②	16回目 「日本人」を科学する③
4回目 目の前の現実を科学する③	17回目 「日本人」を科学する④
5回目 人間であることを科学する①	18回目 「日本人」を科学する⑤
6回目 人間であることを科学する②	19回目 「日本人」を科学する⑥
7回目 人間であることを科学する③	20回目 「現代社会」を科学する①
8回目 人間であることを科学する④	21回目 「現代社会」を科学する②
9回目 人間的存在を科学する①	22回目 「現代社会」を科学する③
10回目 人間的存在を科学する②	23回目 「現代社会」を科学する④
11回目 人間的存在を科学する③	24回目 「現代社会」を科学する⑤
12回目 人間的存在を科学する④	25回目 まとめ
13回目 人間的存在を科学する⑤	

◆教科書

『人間生活の理論と構造』夏川康男（ほか） 学文社

◆参考書

『補強版ストレス・スパイラル』服部慶亘 人間の科学社

◆成績評価基準

終講試験（70%）、受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する。なお、全講義回数分の3分の2以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

◆E-Mail : hattori.yoshinobu@nihon-u.ac.jp